

令和6年度後期 東予東中学校学校評価結果と改善策

西条市立東予東中学校

【学校生活】

○生活

「楽しく学校生活を送ることができている」の項目では、肯定的な意見が生徒 97% (±0)、保護者 93% (-1)、教職員の肯定的意見も 100%となっており、ほとんどの生徒が楽しく学校生活を過ごすことができている。「いじめやいたずらでいやな思いをしていない」の項目では、肯定的な意見の生徒は96%(+3)、保護者88%(+8)であり、肯定的な意見が増加した。今後も昼休み等の見守り、全校教育相談を継続し、生徒の悩みや不安によりそっていききたい。また、「いやな思いをしている」と回答する生徒は2% (-2)、保護者8%(-5)と、改善傾向ではあるが、差は依然として大きい。引き続き保護者との連絡を密に取り、生徒の学校生活の様子をしっかり伝えることが、保護者の不安軽減につながると考えられる。人間関係の小さな変化を見逃さず、大きなトラブルに発展しないよう対応していききたい。

○学習

学習に関して、デジタルとアナログのハイブリッド学習が求められている。全国学力状況調査や定期テスト等にもICTを活用する機会が増えている。愛媛県が作成したCBT（コンピューターで行うテスト）であるEILSを使用する教員も増加した。ICTの利点を生かして積極的に活用することはもちろん、デジタルとアナログを上手に組み合わせ、生徒に学習内容が定着できるように指導改善に努めたい。

「分からないところを先生や友達に相談している」では、91%(+1)の生徒が分からない問題について解決を図ろうとしている。しかしながら、保護者26%(+4)が「そうは思わない」という結果である。引き続き「学び合い学習」を続け、生徒同士の学びをつなげるとともに、授業1時間の「ねらい」を明確にし、振り返りの時間を確保し、生徒の理解度の把握と支援に努めていききたい。定期テスト期間中のGST（学習相談タイム）も引き続き実施し、生徒の「分からない」に応える学校でありたい。

「落ち着いた雰囲気での授業ができている」では、生徒の肯定的な意見は72%(+1)、保護者88%(+6)、教員100%(+5)で、生徒の否定的な意見は22% (-1)となっており、肯定的な意見が増加傾向にある。引き続き、生徒が夢中になれるような授業展開を行っていききたい。授業中の取組が十分でなかったり落ち着きがなかったりする生徒への対応として、真剣に授業に取り組むことの意義を理解させ、その場での指導を徹底していくことを行ってきたが、これも引き続き行っていききたい。教職員の「授業前に教室へ行き、2分前着席、1分前黙想の確認ができている」の項目が、教職員89%であった。忙しい年度末に入ったが、生徒から目を離さぬよう、改めて気を引き締めて取り組んでいききたい。

○情報公開

後期アンケートでは、保護者の82% (-5)が「ホームページや学校だよりをよく見ている」と回答した。肯定意見が減少傾向ではあるが、ホームページや学校だよりを多くの方に見ていただけていると感じている。今後も発信を続け、地域から信頼される学校づくりの一翼を担いたい。

○部活動

「部活動は日々充実し、自分のためになっている」の問いに、実感していると答えた生徒が86%(±0)、保護者82%(+1)だった。今後も部活動を通して専門種目の技能を伸ばし、精神面での成長も後押しできるように活動していききたい。また、顧問が部活動中だけでなく、準備段階の練習前や下校時門を出るまでの確認を行い、安全や人間関係の様子を見守る体制

も継続していきたい。

【家庭生活】

○挨拶

本校の重点目標の一つとして「明るい挨拶」を掲げているが、82% (-1) の保護者が、生徒たちは地域でよく挨拶をしていると感じており、生徒たちも92% (-2) が挨拶をしていると答えている。数ポイント減の結果となったが、校内では生徒会が中心となって挨拶運動を行い、学級委員会で挨拶チェックを行うなど、挨拶の励行に努めている。また、地域から、挨拶に関するお褒めの言葉をいただいたりもしている。今後も明るい挨拶を中心とした活気ある学校づくりを継続し、地域とのつながりを大切にする生徒の育成に努めたい。

○進路

「家庭で学校の様子や将来の進路、生き方について話をしている」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が81% (+4) おり、保護者のアンケートでも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は合わせて88% (±0) だった。進路選択を控えた3年生だけでなく、1、2年生に対しての進路学習が進み、肯定的な意見の増となったと考えられる。今後もそれぞれの進路選択にプラスになる学習環境を整えていきたい。

○学習

「家庭学習の一日平均時間」についての生徒の回答は、2時間以上が20% (+5)、1時間以上2時間未満は40% (-1)、1時間未満は34% (-2)、していないは6% (-1) であった。前期に比べて家庭学習の時間は増加傾向にある。前期の反省を踏まえ、家庭での学習習慣が定着するように、宿題の質の向上、工夫、改善を行った結果と思われる。家庭学習時間が少ない生徒は、ゲームやスマホを過度に使用している傾向がある。「家庭でゲーム機やスマホの利用についてのルールや約束ごとを決め、守っている」の項目では、11% (-1) の生徒が「そう思わない」(保護者37% (-1)) と答えている。使用過多になることで学習時間が削られて学力が下がっていったり、睡眠不足になることで体調が整わなかったりする。使用のルールを守り、トラブルを未然に防ぐよう、保護者と連絡を取り合いながら指導していきたい。合わせて、集会等で啓発を行っているが、SNS等でトラブルにならないよう、情報モラル教育を行ってきたい。

○交通

「交通ルール(登下校中の並進をしない・ヘルメット着用等のルール)を守れている」については、生徒97% (±0)、保護者96% (-2)、教職員のアンケート結果では44% (+5) という結果となった。前期、自転車での事故が多発したことを受け、交通安全教室を実施したり、学級での交通マナーの確認したりするなどした。今後もこのような啓発や登下校の見守りを続け、事故を未然に防ぎ、交通ルールや交通マナー向上を目指していきたい。

○朝食

「朝食は毎日とっている」については、6% (+3) 程度が朝食をとっていないという現状である。引き続き「弁当の日」などを活用した食育に取り組むとともに、家庭への協力をお願いしていきたい。

アンケート結果の反省を生かし、今後も更に良い教育活動を行っていけるよう、努力していきたい。学校生活の様子の見守りを日々継続し、必要に応じて保護者や関係機関、地域にも協力をお願いして指導していきたい。

※ () 内は前期との比較、単位は%

○教職員より

忙しいとは思いますが、部活動や清掃、給食指導は、活動の最初に教員がついておくのが基本です。(いつも、きちんと対応してくださっている方がたくさんいらっしゃいます。) もちろん、無理な時はあるので仕方がない時もありますが、「ついていないことが当たり前」にならないように意識をする必要があります。

生徒の自主性を育てることと、目を離すことは違うと思います。

給食指導の時間、配食の時に生徒だけで当番活動をしており、教員がいないことがある。異物混入への安全管理、衛生管理の対応を考えると必ず教員が立ち会うべきだと思います。

生徒の清掃場所の分担は、生徒の実態によってはある程度教員が決めた方が良いのではと思う。また、教員は自分の担当場所はきちんと指導確認を行う。

ヘルメットのあごひもや並進が気になる。

懇談でゲームの時間が長くてどう指導したらよいか分からないという声が多かった。実際、その影響で朝に遅刻してくる生徒が多いのが現状である。

・チャイムで終わってもらえない授業があり、その教科の授業が4時間目、6時間目にあると給食、清掃の準備に支障が出ています。

・タブレットの持ち帰りをもう少し積極的に進めていけると良いと思う。年度当初に持ち帰り、インターネット環境の確認をすれば、もう少し活用できると思う。

新採3年目までの教員に生徒指導力がない。

○学校運営協議会委員のみなさんより

全校あげての人権ポスターの啓発活動、素晴らしい取組だと思います。今後も続けていってほしいと思います。

東予東中生は、中学生らしい生徒が多いように思います。登下校時のヘルメットの着用もよくできていると思います。

子どもたちが未来社会を切り開くための資質と子どもたちの可能性を秘めた能力の育成を中学校の先生方が教育課程の中でしっかり実行して下さることが重要だと思います。

子どもたちは先生方の教えを守り、知識を理解し、確かな学力を身に付けることと考えます。

道徳教育の充実や体験活動、野外活動の実施、体育、健康に関する指導を率先していただき、豊かな心、健やかな身体、生きる力の育成を望みます。

毎年素晴らしい取組をしていただきありがとうございます。これからも様々な取組をするうえで、協力、支援できることがあれば微力ではありますが力になりたいと思います。何なりとお申し出ください。

夏に校庭の清掃に参加させていただきました。暑い中、先生方とPTA幹部の方々だけで行っていたので負担が大きいなと感じました。諸事情はあると思いますが、前のように全保護者参加が良いと思いました。